

## 学修支援センター企画 「ふしぎ探検隊」11 レポート

**日時**：2015年12月4日（金）18時～20時

**場所**：2号館1階 学修支援センター 学習室1

**内容**：「楽山公大名行列図巻」を観察しよう

**参加者**：人間発達学科4年 4名、心理福祉学科1年 1名、グローバル・スタディーズ学科3年 1名、  
卒業生 1名、教職員 6名 計13名

歴史好きの方お待ちかね企画です。ちょうど1年前、2014年12月12日のふしぎ探検隊で、「津山藩主松平齊孝の大名行列絵図」を観察したことがあります。その際のアンケートで、他藩の行列絵図と比較してみたい、という要望があったことをふまえての企画です。

今回は、仙台市博物館よりお借りした「楽山公（伊達家13代）大名行列図巻」を観察し、参勤交代について学びました。

13代藩主伊達慶邦（楽山）が1842(天保13)年に初めて江戸から仙台に来たときの様子が描かれています。総勢1577名にもおよぶ行列の一人一人に彩色をしています。…この資料の縦は15cm、横は全てつなげると40m以上にもなります。(仙台市博物館解説より)

59枚のパネルを並べていくわけですが、センターの自習スペースだけでは足りずに、学習室1のうしろ扉から中に入って一周したのち、まえ扉を出てまた自習スペースに戻るという、かなり斬新な並べ方となりました。狭い場所だと、並べるだけでも一苦勞です。

疑問や気づいた点を出し合いながら、観察していきます。1年前の絵巻図と違う点は、役割が書かれていないことです。仙台市博物館からいただいた参考資料が大変わかりやすく、役割を確認しながらみることができました。一人ひとりの表情が豊かでおもしろく、どんな会話をかわしていたのか想像するのも楽しい作業です。

観察後には、参勤交代のルートが書かれた参考資料を元に、いかにハードなスケジュールであったかを具体的にみていきました。参勤交代ルートにはまだ駅名として残っている宿場名があること、図には伊達の殿様や白石の片倉小十郎が描かれていたことなど、とても身近に感じることができました。

